

粉好きの系譜 第 24 回

お手軽麺ツアーはいかが

以前この欄でも紹介した「世界麺フェスタ 2008 in さぬきーシルクロードは麺ロードー」が、5 月 3 日から香川県一帯で開催される。初日 3 日にはシンポジウムが開かれ、麺を中心に世界の「粉もの」について専門家が語ることになっている。専門家の話、というと「お堅いもの」として敬遠されがちだが、今回は趣向が少し違っている。

まず、食文化研究家の石毛直道さんが「アジア麺ロード」と銘打った話をされる。次にエジプト考古学の権威として著名な吉村作治さんが、古代エジプトの麺やパンについて語ることになっている。エジプトといえばビール発祥の地として有名だが、そのビールはパンから作られたものとも言われている。吉村さんのユーモアたっぷりの話が楽しみだ。

中国・秦の始皇帝はどんな麺を食べていたのだろうか。そのころの中国には果たして麺があったのか。こうした疑問は、学習院大学教授の鶴間和幸さんが解き明かしてくれることだろう。鶴間さんは古い時代の中国の文献を読み解く研究として、日本ばかりか中国でもよく知られている。

私も、NHK の映像などを使って、大昔のシルクロードを渡って東洋に達した麦の話をする予定にしている。なお、テーマや順序などには変更があり得るので、詳しいことは実行委員会に問い合わせさせていただきたい。

「麺サミット」では、シンポジウムのほかにも、各地の麺が食べられる催しが準備されている。中国やイタリアなどから一流のシェフを招待しての催しというから、麺を求めて世界を歩くなどなかなかできることではないので、この際時間をとって、お手軽麺ツアーを楽しんでみられてはどうだろうか。こちらのほうは「シンポジウムのようなお堅い話は苦手」という方にもお勧めである。